

第1日 言い換えによるつながり

演習問題01

解 答 每年、世界で約8300万人が増加している。

考え方 下線部は、次文（第2文）の that 以下で具体的に言い換えられている（→ K01①）。このように、言い換えのための道しるべ語がない場合でも、前後する2文の論理的なつながり具合をチェックすることが大切である。

[文のつながり]

Today the number of people in the world is increasing.

|| (下線部の言い換え)

Some people say [that every year there are about 83,000,000 more people in the world.]

語句・表現 l.1 the number of people 「人の数=人口」 cf. a number of people は、「多くの人々」の意。the と a の冠詞の違いに注意。

全 訳 今日、世界の人口は増加している。毎年、世界で約8300万人が増加している、と言う人もいる。人口が増加すると、私たちが消費する水も増える。飲料水が充分ない人々がたくさんいる。

演習問題02

解 答 問1 「あなた」は「私」のことを泥棒だと誤解し、「私」は「あなた」のことを紳士だと誤解した。 問2 ウ

考え方 問1 下線部は、次文で具体的に言い換えられている（→ K01①）。

[文のつながり]

We both made a mistake.

|| (下線部の言い換え)

You mistook me for a thief and I mistook you for a gentleman.

問2 2人の登場人物がお互いに相手のことを誤解したので、ウの A Mutual Mistake(相互の誤解)が正解。この痛烈な皮肉の効いたユーモアを味わいたい。

語句・表現 l.1 streetcar 「路面電車、市街電車」 l.2 fare 「(交通機関の) 料金」 l.2 to one's surprise 「(～が) 驚いたことには」 l.4 missing 「紛失した、行方不明の」 l.6 I beg your pardon. 「すみません、失礼しました」 l.7 reply 「返事をする」

全 訳 ある日、2人の男が路面電車に乗っていた。そのうちの1人が料金を払うために、財布を取り出そうとしてポケットに手を入れた。しかし、驚いたことに財布はそこにはないことに気づいた。彼はもう一方の男の方を向いて、「あんたは私の財布を盗んだな。」と叫んで言った。だが、ちょうどその時、彼はもう1つ別の自分のポケットに手を入れてみたら、行方不明の財布がそこにあった。

「どうも失礼いたしました、私は誤解していました。」と大きな声で言った。

もう一方の男はすぐに、「気にしないで結構です。私どもはともに誤解をしました。あなたは私のことを泥棒だと誤解し、私はあなたのことを紳士だと誤解しました。」と返事をした。

演習問題03

解 答 問1 エ 問2 ウ

考え方 問1 このパラグラフの主題は、第1文 (What is biotope?) でわかるように、biotope (ビオトープ=小生活圏) である。第2文～最終文はすべて、この biotope に関する記述である。選択肢ア～ウもすべて biotope を説明した文である。ところが、選択肢エはそうではないし、前後の文とはつながらない。特に後半の but they are enough は、この文脈では意味が不明である。

問2 () , it is just like a small world. は、直前の2つの文を抽象的に言い換えた文である（→ K01②）。したがって、ウの In other words (換言すれば) が正解（→ K02）。

[文のつながり]

It is a special place for plants and animals.+There both of them can live together.

|| (直前2文の言い換え)

(In other words), it is just like a small world.

語句・表現 l.1 living things 「生き物」 l.3 more than that 「それ以上のもの」

全 訳 ビオトープ (biotope) とはどのようなものか。“bio”は「生物」を意味し、“tope”は「場所」を意味する。ビオトープとは、水と木のある場所であると言う人もいれば、都市や大きな町にある自然のままの場所であると言う人もいる。ビオトープはそれ以上のものである。それは植物や動物たちのための特別な場所である。そこでは動植物が一緒に生きることができる。言い換えれば、それはまさに1つの小世界のようなものである。